

2020年5月11日

新型コロナウイルス感染症に対する本学の支援について

みなさん、茨城キリスト教大学学長の上野尚美です。残念ですが、今はみなさんに直接会うことができませんので、こうして、みなさんにビデオメッセージを届けます。

新型コロナウイルス感染症は、相変わらず終息の見通しがたっておりませんが、みなさんはお元気でしょうか？本学では、新型コロナウイルス感染防止のために、近隣の大学よりいち早く、4月27日にオンライン授業が始まり、2週間が経ちますが、少しずつ慣れてきているのでしょうか？みなさんがオンライン授業を受けるために、ネット環境の整備などが必要だったと思います。そこで、今日、まずこれをお伝えしたいのですが、オンライン授業受講準備に関わる負担を軽減するために、本学の全学生・大学院生を対象に、一律3万円のオンライン授業支援特別奨学金を支給することとしました。もちろん、返還する必要のない給付型の奨学金です。なるべく早く、今月中にも、みなさんの手元にお届けするための仕組みです。学生ポータルサイトのIC-UNIPAに詳細を公開します。振込先などを添えて申請していただくこととなりますので、速やかに手続きをお願いします。

学生のみなさんへの支援をあらためてお伝えしますと、まず、全学生・大学院生対象の一律の奨学金3万円の支給です。そして本学では、すでにノートパソコンの貸し出しも行っています。さらに、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、経済環境が激変した学生への支援を行います。具体的には、本学の大学生奨学金の枠を拡大します。また、外部の奨学金などの紹介も行います。

そのほか、感染拡大の影響で心配なことについて、学務部で各種相談の受付を行っています。オンライン授業という初めての環境の中で、安心して勉強に集中してもらえるように、様々な対応を行っていますので、学生のみなさんご安心ください。

さて、新型コロナウイルスの感染からみなさんを守るために、授業をオンラインで行うことを決定してから、「教育を止めてはいけません。止めるべきは新型コロナウイルス感染である。」を念頭におきつつ、教職員は一丸となって、これまで、みなさんのために様々な準備や支援をしてきました。教員は、オンライン授業実施のために勉強会に参加したり、スキルのある教員が心配な教員にアドバイスしたりするなど、多くの準備をしてきました。今でも通常の授業よりも多くの時間を割いて、授業の準備をし、実施をしています。職員も、通常の年度よりも長い時間をかけて、みなさんの履修登録、オンライン授業準備の支援をしています。

ここで、学納金の中の設備拡充費について、オンライン授業との関係でお問合せいただいていますので、ご説明します。設備拡充費というのは、大学の施設を利用するための使用料のようなものではありません。本学で学ぶみなさんが、あるべき環境で学修できるように、設備を充実させていくために使われるものです。オンライン授業が行われているこの時期でも、常に大学を進化させていくその作業は続いているのです。今回みなさんに特別奨学金を支給するのは、みなさんの負担軽減を可能な限り早く支援するためです。どうぞご理解ください。

最後に、学内への入構についてお話します。気になる方も多いと思います。緊急事態宣言が発せられ、茨城県が「特定警戒都道府県」となり、学生の構内への立ち入りができなくなりましたが、5月7日から、大学が定めた条件に合致すると認められる場合は、十分な感染防止対策が取られ、事前に各部署に相談し、許可を得ることを条件に、特定する場所への入構を限定的に認めることも行なっています。しかし、あくまでもやむを得ない事情と認められた場合です。みなさんの安全を守るための措置ですので、注意してください。そして、今後、緊急事態宣言等が解除されるなど、状況が改善に向かっていると判断された場合には、改めてご案内いたします。

「明けない夜はない」というのは、シェイクスピアの『マクベス』に出てくる有名な台詞ですが、キリスト教には、「悲しみの夜があっても、希望の朝（あした）はくる」という思想があります。今後とも、本学ではみなさんの学修の機会を守り、みなさんが健康であることをお祈りしております。キャンパスで元気に会えるまで、一緒にがんばりましょう！